

# 救急☆3分トレーニング

Vol. 30

救急課 高度救急研修センター



この「救急☆3分トレーニング」は、救急隊員が日ごろ疑問に思っていることや、知っているようで知らないこと、何となく他人に聞くのが恥ずかしいことなどを、分かりやすく、3分以内で解決するトレーニングです。新しい隊員さんだけでなくベテランさんも、出動の合間にササッと御覧いただき、今後の救急活動に役立ててください。

## ★救急の歴史…阪神・淡路大震災（平成7年）



平成7年1月17日(火)午前5時46分に発生した兵庫県南部を震源とするマグニチュード7.3の地震は、死者・負傷者合わせて約5万人という大きな被害をもたらしました。震度7を観測した地域の被害は特に甚大で、京都市消防局からも応援隊が派遣され、連日連夜の消火・救急・救出活動が行われました。

この震災を教訓に、「緊急消防援助隊の創設」、「トリアージ・タッグの標準化」、「初動体制の強化」及び「広域防災応援協定の締結」等様々な改革が実行されました。都市再生に向けて、当時の兵庫県知事が掲げた「創造的復興」という理念は、平成28年の熊本地震でも受け継がれています。

また、この震災で注目された「防ぎえた外傷死」又は「防ぎえた災害死」  
Preventable trauma death : PTD Preventable disaster death : PDD  
である「クラッシュ症候群」により、長時間家屋等の下敷きとなった生存中の傷病者が、救出後に心肺停止となる事例が多く発生しました。

南海地震や直下地震の発生が危惧される中、私達が未だ経験したことのない数千人、数万人規模の人的被害にどう立ち向かうか、防ぎえた災害死をいかに減らすかということを真摯に考えていかなければなりません。